

有明海水産資源回復技術確立事業*

天然アゲマキ調査

重久 剛佑

有明海の重要な水産資源の一つであるアゲマキ *Sinonovacula constricta* は、平成元年から原因不明の大量斃死が発生し、平成6年以降天然資源が激減している。このため、資源回復を目的として、平成8年度から種苗生産及び放流技術の開発に取り組み¹⁾、特に平成21年度からは本事業により、放流技術開発の一環として、稚貝の大量生産・放流を行っている。これら一連の事業では、放流によって母貝集団を創出し、再生産サイクルの構築を目指しており、その効果を把握するため天然アゲマキの生息状況調査を行ったので報告する。

方法

令和5年8月～10月に、有明海佐賀県沿岸域の48地点で、1m×100mの踏査を行い、アゲマキの巣穴開口部を計数した。また、各地点30個を上限としてアゲマキを採取し、殻長を測定した。

結果

調査結果を図1に示す。昨年²⁾と同様に、天然個体の生息が確認されず、資源状況は極めて厳しい状況であった。

文献

- 1) 佃 政則・神崎博幸・津城啓子・福元 亨・梅田智樹・荒巻 裕・伊藤史郎 (2017) : 佐賀県有明海沿岸におけるアゲマキ分布の変遷, 佐有水研報. (28), 47-49.
- 2) 佃 政則 (2022) : アゲマキ増養殖技術開発試験 (天然アゲマキ調査), 佐有水業報. (4), 25.

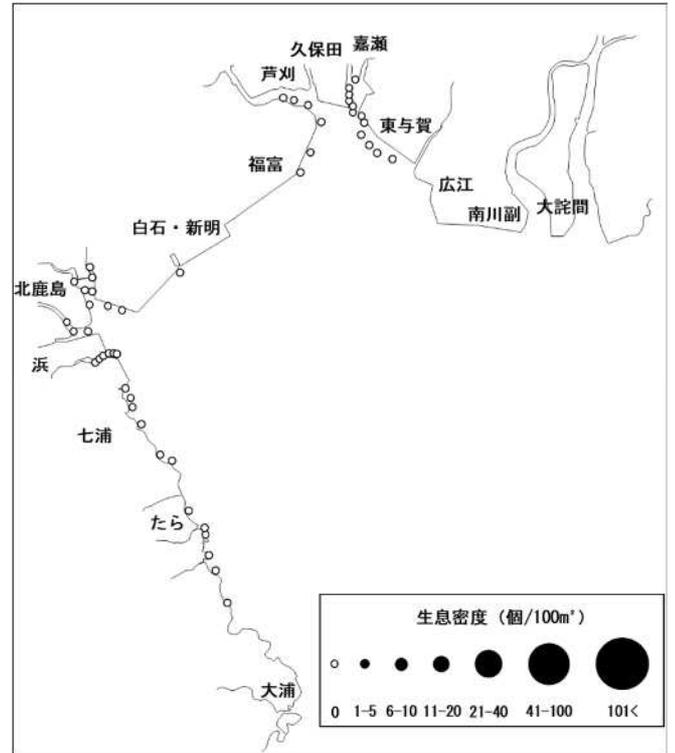


図1 天然アゲマキ調査結果